平成20年4月1日　第236号

わがまち

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
3D・CGアニメーション企画・制作
半田中央印刷株式会社
〒475-0032　半田市潮干町1番地の21
TEL〈0569〉29-2525（代）　FAX〈0569〉29-4500
E-mail:main@handa-cp.co.jp　http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ　http://www.akai-shinbunten.net　<発行所>あかい新聞店　武豊店/知多郡武豊町字金下37番地☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地☎<0569>35-2861
企画・制作：株式会社 新聞ビル

Nobuo Murakami

元気のでてくる〝ことばたち〟⑭

村上信夫（アナウンサー）

4月。新学期。希望に胸膨らませている子どもたちも多いことだろう。みんな入学したときは、ピカピカの気持ちなのに、時間が経つに連れ、学校が疎ましい存在になっていくのは、なぜだろう。でも、こんな先生に巡り会っていれば、学校が楽しい存在になるだろうと思う。

その人は、夜間中学で30年、教鞭をとってきた松崎運之助（みちのすけ）さん。松崎さんは、山田洋次監督の映画『学校』のモデルになった人でもある。

2年前に定年退職して、教育現場の第一線を退いたが、その後も、東奔西走の毎日だ。全国を講演行脚している。

母と過ごした時間

松崎さんを語るにおいて、欠かせないのは彼の母親のことだ。大正9年、佐賀県に生まれた母の名は、ヤエという。

松崎さんは、母に叱られた経験がない。母は、ぐちも言わなかった。辛く当たったこともなかった。勉強しなさい、出世しなさいも言わなかった。ただ「人それぞれに自分の花を咲かせればよい」と。

いつも誕生日になると、正座させられて、生まれたいきさつを聞かされた。松崎さんは、昭和20年11月、日本への引き揚げを待つ大混乱のさなか、旧・満州で生まれた。松崎さんが生まれる直前、栄養失調で兄が1歳の誕生日を待たずに死亡した。

まさに母は、命がけで産んでくれたのだ。誕生日は母に感謝する日なのだ。「おまえの命のうしろには、無念な思いで死んでいったたくさんの命がつながっとるとよ」

松崎さんが生まれた後も、二人の弟が亡くなり、母は、あわせて3人の子を亡くしている。「自分の子を亡くすことが、どげん、悲しかことか」

勉強は幸せになるために

～元・夜間中学校教師　松崎運之助さん～

母は、何度も口にしていた。

母は、日雇い仕事しながら、子どもを育てた。小学校3年の頃、長崎の繁華街を流れるどぶ川沿いのバラック小屋に住んでいた。

松崎さんは、母が帰ってくるまでの時間、弟妹の相手をしていた。「大好きな母の役にたちたい。母に喜んでもらいたい」一心だった。母が帰るのを待ち切れず、外に迎えに出た。母の姿を見つけると、3人の子どもたちは、まとわりつくようにして、母に一日の出来事を「祭りのように賑やかに」話すのだった。その時間が何よりの楽しみだった。

母の口癖は、「明日は明日の風が吹く」。貧乏でも、気持ちは透き通っていた。

40歳の誕生日に、母から3冊の大学ノートをもらった。母にもらった唯一のプレゼントだ。そのノートには、細かく小さな文字で、母の生い立ち、満州での生活、引き揚げ体験、離婚のことなどがぎっしり書かれていた。小学校も満足に通っていない母だが、バラック小屋の中で、パールバックの「大地」、マーガレットミッチェルの「風とともに去りぬ」といった愛読書を繰り返し読んでいた。だから、自分の人生を文章にまとめ、子に託すことを厭わなかったのだろう。

母は、一九九八年1月9日に亡くなった。77歳だった。

死後、遺品を整理していたら、押し入れからスケッチブックがたくさんでてきた。そこには、色鉛筆で彩色した花や木や風景や人物が描かれていた。70近くになってから、色鉛筆講習を受けて、密やかな趣味にしていたのだ。母は、苛酷な体験、時代の制約の中でも、自分を大切に生きようとしてきた人だった。人生を振り返るノートも、色鉛筆画も、その証しだった。

「母からの最大のお贈り物は、私自身と、母とともに過ごした時間だ」松崎さんは、振り返る。

学校で過ごした時間

松崎さんは、中学を卒業すると、長崎の造船所に就職し、働きながら、夜間高校に通った。長崎に、4年制の夜間大学がなかったので、上京して町工場で働きながら夜間大学に学んだ。教育実習で行ったのが夜間中学だった。そこで学ぶ人たちとの出会いから、自分が教鞭をとるなら、夜間中学だと確信して、率先して、夜間中学への配属を希望した。

夜間中学は、生徒の現実に学校が合わせている。4月の新学期に一斉に新たに決心して、同時に意欲を持とうなんて無理な話だ。「勉強したくなったとき」「決心したとき」に学校に入れることを最優先させる。松崎さんは、「来てもらえるだけで嬉しい」と言う。

松崎さんは、30年間、夜間中学では、先生ではなく、生徒をしていたようなものだと笑う。「夜間中学に入ってくる生徒の国籍や年齢や入学時期は、一切問わない。いろんな境遇の生徒たちから、人間として本当に大切なものを教えてもらった。年齢が違う、ものの見方考え方が違う。違うから楽しい」

ある時、「夕日」という詩を教材に、素敵な詩を朗読し分析して、いい授業が出来たと、自画自賛、感激していたら、生徒は窓の外の夕日を見て、一人一人の感慨にひたっていた。

しかし、そこで松崎さんは思い直した。「みんながそれぞれ自分の夕日を持っている。それぞれの感動を自然に引き出せた授業は、結果としていい授業になったのではないか」

この体験を通して、「ぼぉーとして、夕日に見とれる授業があってもいい。見えるものばかりではなく、思いを深める、心を通じ合わせることが大切だ」そう認識させられた。生徒一人一人が、時に応じて、話題に応じて「先生」になる。それが夜間中学というところだ。

夜間中学の生徒たちは、文字への思いが深い。だから授業は、単なる文字の学習にはならない。彼らが生きて来た道筋に思いを馳せる場となる。想像力も表現力も豊かな人達ばかりだ。

俳画／イネ・セイミ

「母」という字を巡って、生徒の間でこんな会話があったそうだ。「俺には、母という字の中の点々が涙に見えるよ」と、苦労の多かった母の思い出話を始めた生徒がいた。そうかと思えば、「点々はおっぱいを表している」と説明すると、「そんなの表に出していいの？」とリアクションする生徒がいた。また、「父がハにバツだから、母はハに○にすればいいのに」と笑える珍答もあった。

30年の経験から、「勉強は幸せになるためにするもの」でなければならないと松崎さんは思っている。「心を豊かにするための道具。心を耕すための道具だ」とも。

よく「母校」と言うが、学校は母のような場所でなければならないと、松崎さんは考えている。「母のような優しいまなざしのもとで、安心して間違えたり、失敗したり出来るところであるべきだ。試行錯誤しながら、学校で豊かな感性を培えた人たちは、学校が懐かしい。そんな彼らにとっては、母なる学校、母校なのだ」

自分が自分でいられる時間があるのは、幸せなことだ。松崎さんには、母と過ごした幸せな時間、夜間中学で過ごした幸せな時間がある。そして、松崎さんと関わった人たちにも、幸せな時間が流れている。

NHK

■村上信夫プロフィール

NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
4月からは、新番組『ラジオビタミン』担当。
（ラジオ第一 8：30～11：50）
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』「育児カレンダー」などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち！』（近代文芸社）
『おやじの腕まくり』（JULA出版局）『いのちの対話（共著）』（集英社）『いのちとユーモア（共著）』（集英社）

好評発売中

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ　常滑屋
とき　月一回　第二金曜日　午後一時～
会費　一回　二、五〇〇円（四ヶ月分前納制）
問合せ　☎〇五六三（三二）〇五八三

堤江実のポエムコンサートをCDでお届けします。
言霊（ことだま）に癒される
CD 堤江実のポエムガーデン
やさしい風がふいています。
木々の梢は光っています。
あなたの心がやすらぎで満たされますように。
あなたの心に喜びがあふれますように。
詩と朗読　堤江実
フルート　イネ・セイミ
ピアノ　はちまん正人
構成　佐藤よりこ
Disc1. 光のように
Disc2. 花のように
2003年10月22日発売
CD 2枚組3,150円（税込）

慈愛の人・良寛（34）

杉本武之

良寛とモンテーニュ（その2）

良寛の生き方の特異性について、中野孝次は『風の良寛』の中でこう書いています。

「身は黒衣をまとう僧体でありながら、寺の住職でもなく、経を読むでなく、人の葬式もしてやらない。僧でありながら僧でなく、みごとな詩を作るけれども漢学者でない。『万葉集』を白文で読む学識があるけれども国学者でない。みごとな歌をよむけれども歌人でない。高雅な書を書くけれども書家でない。そういう意味で江戸時代という階級社会に生きながら、社会の枠のどこにも属さない、世外の人、ただの裸の人だったのである。だから、良寛にとっては、自分とは何か、この我は何によって世に存するか、という問いかけは、つねに内から衝きあげてくる形而上的問いであり、そうやって絶えず自己を確かめなければ、自分を立ててゆくことができなかったのだ」

良寛の、こうした生き方を表現した漢詩を一つ紹介します。

「此の生何の似たる所ぞ、騰騰として且く縁に任す。笑ふに堪へたり嘆くに堪へたり、俗にも非らず沙門にも非らず。蕭蕭たる春雨の裡、庭梅未だ筵を照らさず。終朝炉を囲んで坐し、相対して也た言無し。背手して法帖を探り、薄か去に幽間に供す」

（大意―私の生き方は、いったい何に似ていると言ったらいいか。自由に、ゆったりと、すべて運に任せて生きているだけだ。この生き方は、人によって笑うこともできるだろうし、嘆かわしく思うこともできよう。なにしろ私は俗人でもないし、僧侶でもないのだ。庵の外はしとしとと春の雨が降り続き、庭の梅は、まだ咲き誇ってあたりを明るくしていない。午前中、囲炉裏のそばに坐って自問し続け、言葉も発しないでいる。さて、後ろに手をまわして手習いの手本を探し出し、一つ、暇つぶしの材料にしようかな）

モンテーニュの生き方も周囲の理解を越えていました。彼は37歳のとき、裁判官の職を辞して故郷に隠退し、それ以後、ひたすら「自己」の内面に目を注いで生きました。多くのすぐれた評伝を書き残したオーストリアの作家・ツヴァイクは、『モンテーニュ』の中でこう書きました。「モンテーニュは、自分の生活があること、ただこれだけだった。冷淡で、煮え切らず、臆病だと言って、誰から嘲笑されようとも、好きなように嘲笑させておいた。地位や位階に向かって突進しないのを他人から訝られても、好きなように訝られておいた。彼

モンテーニュ

どんな形をとろうとも、最善のもの、すなわち自己の本質の独自性はけっして手放さなかった。非人間的な時代にあって自分自身が人間的であること、集団狂気のただ中にあって自分自身が自由で

を知っている最も近しい人たちでさえ、彼が表向きの行動のかげで、どれだけの忍耐と賢明さと柔軟さとをもって、自己に課したあの二つの課題、単なる生ではなく、自分自身の生を生きる、というあの課題に取り組んでいたかを知る由もなかったのである」（渡辺健・訳）

良寛とモンテーニュの考え方の共通点を少し拾い出してみます。

まず「死」について。

良寛は、越後を襲った大地震の後に、友人の山田杜皐に手紙を出します。その中に有名な文句があります。「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候」。冷厳な表現ですが、良寛の自然順応の思想がよく表れています。災難も死も、自然に任せておけばよい、じたばたしない方がよい、と良寛は考えていたのです。

モンテーニュもこう考えていました。立派に死ぬことは大事なことだが、それよりも立派に生きることの方が大事である。よけいな心配をせずに、死のことは自然に任せておけばよい。ギリシャの大哲学者・アリストテレスよりも、近所の百姓の方が立派に死ぬ。「私は近所の百姓たちが、どんな態度と確信をもって最後の時をすごしたらよいかなどと考え込むのを見たことがない。自然は彼らに、死にかけた時でなければ死を考えるなと教えている。そしてその時でも、彼らの姿は、死そのものと長期にわたる死の予想とで二重に攻め立てられているアリストテレスよりも美しい」（原二郎・訳）

次に「病気」について。

モンテーニュは、病気についても、死と同じように、自然に従えという考えをもっていました。病気で苦しい時は顔をしかめ、痛い時は泣きわめくのが、人間の自然の姿である。「私は、病気の好きな通りに身を任せる。私も激痛にさいなまれる時は、うなるし、やきもきする。だが、自分を失うことはけっしてない」

良寛も、病気のつらさを、そのまま飾ることなく人に訴えているし、詩歌に表現してもいます。晩年の良寛は、激しい下痢で苦しんでいました。その惨めな姿を詠んだ旋頭歌。

「ぬばたまの夜はすがらに糞まり明かし　あからひく昼は厠に走りあへなくに」

（大意―私は、夜は夜通し、激しい下痢でウンコばかりして、やっと夜を明かし、昼は昼で、便所まで走っていけないほど下痢で苦しんでいるんですよ）

また、下痢の苦しさを訴えた短歌も残っています。

「言に出でて言えば安けし下り腹　まことその身はいや堪えがたし」

（大意―下り腹なのだと言葉に出して言えば至極簡単ですが、現実、下痢に悩む我が身は、いやはや堪え切れぬほどの苦しみを味わっているのですよ）

続いて「虚偽」について。

モンテーニュは、嘘をつくことを非常に嫌いました。史上まれに見る激しい宗教戦争のさなか、ボルドー市の市長として、新旧両派の調停に当たった時でさえ、自分の感情を偽って術策を弄することを潔しとしませんでした。こう書いています。「私は自分の信念を曲げて事柄のために努めるよりは、むしろ事柄を挫折するがままに放っておく。ごまかしと偽りは大嫌いだし、これほど心の卑劣を示すものはないと思っている」

名主見習をしていた若い良寛も、まったく同じ信念をもって、難問に立ち向かいました。正直すぎたために、失敗の連続でした。一例を紹介します。出雲崎の代官と漁民の間にトラブルが起こりました。その調停に当たった良寛は、代官に向かっては漁民が言った悪口雑言をそのまま上申し、漁民には代官の嘲弄をそのまま伝えたので、両方の対立はますます激化し収拾がつかなくなりました。嘘を嫌った良寛の姿を彷彿とさせるエピソードです。

最後に付け加えると、モンテーニュも良寛も、死ぬまでの4年間、若くて美しい女性と親しく交際するという夢のような幸運に恵まれました。良寛は70歳の時に、30歳の貞心尼に出会います。貞心尼は、死の床の良寛を看病し、その最期も看取りました。

モンテーニュは55歳の時に、22歳の、フランス一流の名家に生まれた文学少女のマリ・ド・グルネと出会います。ツヴァイクの『モンテーニュ』にこう書かれています。

「ここに信じがたいことが起こった。うら若い少女がモンテーニュの著作を愛し、これを神と崇めていた。そして、この男のなかに自分の理想を探し求めたのである。この愛情がどの程度まで、著者、作家としてのモンテーニュに捧げられていたかは、はっきり決めがたい。しかし、モンテーニュは、しばしばパリに近い彼女の屋敷に招かれて滞在した。そして、死後における『エセー』の出版を彼女に委ねた」（つづく）

〈杉本武之プロフィール〉
1939年　碧南市に生まれる。
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
〈趣味〉読書と競馬

この指（ゆび）とまれ（145）

氏原朝信

月遅れのひな祭り

三月三日がひな祭りですが、愛媛県宇和島（南予地方）では、月遅れの四月三日がひな祭りなのです。この日を「お節句」と呼んでいました。この日は女の子だけの祭りではなかったようです。いま思うと、端午の節句とをいっしょに祝っていたのかも知れません。

三月中旬から毎年行く山（見晴らしのよい禿山）に陣地（巣または基地）を作りに行くのです。陣地は、二手に分かれて作ります。馬酔木（あせび）のような低木が密集した所や松の枝に作ります。女の子たちを迎えるために両陣営ともに一生懸命になって作ります。学校から帰るなり行くのです。春休みになると佳境に入り、朝から毎日のように行っておりました。

陣地作りだけではなく、幟（のぼり）を作ったり、木の刀を作ったりと、男の子たちは大忙しです。どの子たちの瞳は輝いていました。今のように塾や習い事のない頃だったから、できたのかもしれません。

いよいよ節句の日です。

母親たちは朝早くから起きて弁当づくりです。一段の重箱には巻ずしや狐ずし（稲荷ずし）、二段目には筍・まめ・人参・小芋・れんこんなどの煮物、手作りの羊羹や寒天、蒲鉾（揚げ巻、錦巻など）などを入れました。ひな豆など菓子類を入れて、二段・三段の重箱を風呂敷に包み、アルミの水筒にお茶を入れ、持っていくのです。

荷物はこれだけでなく、腰には木の刀を差し、幟を持って出発です。小さな部落でしたが、男女あわせると二十四・五人となり、賑やかなものでした。

前日まで作っていた陣地に着くと、二手に分かれて先ずは「ちゃんばらごっこ」です。鬼ごっこや陣とりなどをして日が落ちるまで遊んでいたものです。

母親たちが丹精込めて作った弁当は、いつの間にか空っぽになっていました。

大人たちがどうしていたかは、まったく知りません。大人たちは示し合わせてのんびりと花見酒をしていたのでは、と想像しています。

木の刀づくり

握れるぐらいの真っすぐにのびている樫を見付けておき、二月頃に切る。少し枯れてきた頃、鉈（なた）で荒削りをし、小刀や割れた皿のかけらで削ってすべすべにする。

Oeuf Oeuf（ウフウフ）仏語で卵という意味です。

春のポカポカ陽気に誘われ、子供の手をつないで自宅近くの公園へデビュー。『さぁ～何して遊ぼうか？』と周りを見渡す私を横目に、しゃがんで砂遊び。何も用意は要らないのですね。飛んでいる蝶や黄色のタンポポを見つけては『あ～あ～』と驚いたり、触ったり興味のむくまま。また走り始め、今度は階段をもどんどん登り、ママの背丈より大きい滑り台をぴゅ～ん。怪我だけは…と心配が尽きないのですが一歳七カ月半、成長を喜ばしく思っています。

休日の時間がある時『夕飯のお手伝いできるかな～』とお願いしてみました。今日の献立は『春巻き』取り急ぎ具を炒め冷ましておきます。さぁ～ここからが息子の出番。皮の向こう側に小麦粉のりをスプーンでぬり、具は真ん中に別のスプーンでのせスプーンを置き、手前を折り、右、左、と左右の端を折り曲げ、くるくるくる…ハイ完成！初めはくしゅくしゅの餃子みたいでしたが、十二個目くらいから上手に出来るようになりすご～い！と感動しているのもつかの間。飽きてきて具を手づかみでパクー食べちゃいました。この先カリッと揚げたらもっと美味しいのに…。

手早く春巻きを揚げ家族で夕飯を『いただきま～す。』好奇心旺盛な時期、食が細いのですが、お手伝いをし興味を持ってくれたのか？いつもより沢山食べてくれます。野菜嫌いのじいちゃんも孫が作ったとあれば『美味しいよ』と大喜び。沢山の笑顔がもらえました。食生活を楽しみながら身につけること。忙しい毎日では大変な事ですが、イベント的に行うのも楽しいものです。この春、なにか始めてみようと思っている方多いのでは？良かったら食べ物を作る事お勧めします。夢乃蔵では、パン屋さんの厨房で習う『パン作り教室』月に六～八クラス、『お菓子教室』月に一～二クラス。そして『子供お料理教室』月に二クラス。出張でデイサービスセンターにて『リハビリパン教室』月一回。『知的障害の子供達』と月一回のパン教室を行っています。その他依頼もお引き受けいたしますのでどうぞご利用下さい。

料理研究家　長澤晶子

いべんと

◎常滑市民文化会館
▼平成二年度　常滑市子どもを守る会総会　十九日（土）午前十時～同十一時半
▼静琴会コンサート　二十日（日）午後〇時半～同四時半
▼めぐみ会　ピアノコンサート　二十七日（日）午後〇時半～同四時

◎常滑市立図書館
▼らくらくらぶ　炎友会合同展　十六日（水）～二十五日（金）
▼あじさいグループ展　二十六日（土）～五月七日（水）

◎常滑市民俗資料館
▼第二十一回我が家の歴史展（常滑焼の彫刻師谷川曰道展）　五月一～二十五日（日）

◎常滑市体育館
▼愛知県球強化リーグ（個人）　十一日（土）
▼愛知県高校総体バスケットボール　知多支部予選会　二十八日（土）～二十九日（火・祝）

◎鬼崎公民館
▼自主事業　折り紙教室　端午の節句兜飾りを和紙で作りましょう　十九日（土）　午後一時半～　講師　公民館主事　会場　鬼崎公民館学習室　対象　一般　定員　十五名　受講料　無料　材料費　二百円　申込み期限　十三日（日）（電話申込み可）　問合せ　鬼崎公民館☎43－0660
▼ヤングカルチャースクール　レッツ・ヨガ　五月九日（金）～六月二十七日（金）全八回（毎週金曜日）　午後八時～同九時　講師　スポーツインストラクター　稲葉昌代さん　会場　鬼崎公民館講義室　対象　市内在住、在勤の青年男女　定員　三十名（定員を超えた場合は抽選になります）　受講料　千六百円　持ち物　バスタオル又はヨガマット　申込み期限　二十日（日）（電話申込み可）　問合せ　鬼崎公民館☎43－0660
▼文化教室　初心者短歌教室　五月七日、十四日、二十一日（各水・全三回）　午後七時半～同九時　講師　伊奈進さん（中部日本歌人会委員）　会場　鬼崎公民館視聴覚室　対象　市内在住、在勤、在学の中学生以上（未成年の場合は保護者の許可を受けて下さい）　定員　二十名　受講料・材料費　無料　申込み期限　二十七日（日）　申込み・問合せ　鬼崎公民館☎43－0660（電話申込み可）
▼市民講座　創作舞踊講座　五月十日、十七日、二十四日、三十一日（各十～全四回）　午前九時半～同十一時半　内容　十日　基礎的な動きの練習　十七日　基礎的な動きの練習　二十四日（休の動きや運動である物を表す）　二十四日　基礎的な動きの練習　好みの曲に振りつけをする　三十一日　基礎的な動きの練習　好みの曲に振りつけをする　でき上がった踊りを踊る　講師　平野令子さん　会場　常滑市南陵公民館二階視聴覚室　対象　市内在住、在勤四十歳以上の人　定員　二十名（定員を超えた場合は抽選とします）　受講料　無料　持ち物　運動のできる服装　バスタオル（ストレッチをする時の下敷き）　申込み期限　五月七日（水）　公民館窓口（電話、FAX、インターネット可）　問合せ　南陵公民館☎34－4748　FAX36－0074
※講座などの受付時間は午前九時～午後五時
▼創作クラブ（ペレットこうさく）　一日（火）～三十日（水）午前九時～午後四時半　内容　乳酸飲料の空き容器から生まれたペレットでモザイク絵を作ります　材料費　一個百円
▼季節工作（こいのぼり）　一日（火）～三十日（水）午前九時～午後四時半　内容　軍手でこいのぼりやかぶとを作ります　材料費　一個百十円
▼いろあそび（ガーゼ染め）　二十日（日）～三十日（水）午前九時～午後四時半　内容　ガーゼにいろいろな模様をつけ一色で染めます　材料費　一枚百八十円
▼キッズルーム1（さくらんぼ）　五月十三日～七月十五日（火、全十回）　午前十時半～同十一時半　内容　音楽をベースに触れ合いを取り入れた親子遊び　講師　青木ノブ子さん（親子ふれあい体操）　対象　おおむね二歳～就園前の子どもとその親　定員　二十八組　申込み多数の場合は抽選）　参加費　二人一組二千円十回分（託児希望の方は別に一人二千五百円）　申込

（5ページへ続く）

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール／鬼崎ホール／阿久比ホール
TEL〈0569〉35-4949（代表）
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
(有)知多エッグ
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ葦380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(4)

《日本の子ども『人権の危機』》

西尾市立東部中学校での『いじめ・自殺事件』（九四年十一月）、それに連動するかのように各地で多発する「いじめ・自殺事件」を受けて、文部省が『いじめ対策緊急会議報告―いじめの問題の解決のために当面とるべき方策について―』（九五年三月）の提起。ここに至る三十余年の間、遊び型非行・万引―校内・家庭内暴力―仲間内暴力（いじめ）と社会世相的に、子どもの問題行動の主役は目まぐるしく。重なり合い、しかもテンポを早めて様変わりしてきた。

その行為の対象も物品から教師、肉親・家族、友人へと、身近な人間にまで向けられてきた。その果ての子ども当人の自殺、情緒障害、不登校、高校中退というすさまじい展開をみせ今日に至ってきている。

文部省も、九一年度の『学校基本調査』から、「学校ぎらい」を理由に、年間30日以上欠席した小・中学生（不登校児）の調査を開始した。

当初は、中学生を中心に七～八万人で推移していたが、いじめなどが原因で、自分の世界に引きこもりがちの従来のパターンの不登校児に加え、はっきりした原因もわからないまま、学校に行けなくなってしまう「何となく型」の不登校児も増加してきた。

そこで文部省も、九八年調査より、不登校理由から「学校ぎらい」という文字を削除したところ、前年度を二万二千人上回り、約一二万八千人と過去最多を記録。今世紀に入っても、少子化の中、一三万余人で推移する不登校児のデーターが示されてきている。

校内暴力が問題とされていた八〇年代当初より、「力で押さえつけ、校則で取り締まり、管理してみても、次にはいじめ、そして登校拒否という、より内向的な形の問題行動が、増えるだけ、その根は同じ」と指摘されてきた。結果は、その通りになってきた。

子どもたちは追いつめられ、ついには『学校を捨てる』までになってきている。

◆

「『母校』という言葉が死語になりつつありますが、学校は、母という字がふさわしいほど懐かしくてたまらないところであったはずです。

『学ぶ』ということが、どんなに喜びであるか、『教えるという仕事』が、どれほど手応えの確かな生涯を賭けるにふさわしい素敵な職業であるか、ということを、そして学校が楽しい所であってどうしてならないのだ、ということをこの映画の中で描きたかった…。」

この言葉は、東京下町の夜間中学校に学ぶ、成人中学生達の学校生活を描いた映画『学校』試写会（九三年七月）に、主演女優竹下景子さんとかけつけた山田洋二監督のメッセージの一部です。映画『学校』を見終えて、昼間は働き、夜間学ぶ大人の中学生の姿―はげまし合い・助け合い・教え合い・互いに悩み合い・悲しみ合い・力を合わせて目的を達成して、喜び合う生徒と教師の織り成す姿に、久し振りに感動し、私は目からうろこが落ちる思いで、このメッセージを、あらためて噛みしめました。「ほんとうにそのとおりだ…。これが人間の学び合いだ。人間の教え合いだ。人間になるための学校だ…」と。

御当地出身の竹下景子さんのお父さん竹下弁護士とは、名古屋弁護士会主催の戸塚ヨットスクール問題のシンポジウムの企画・開催を契機に、『名古屋弁護士会子どもの人権研究会』のメンバーの一人として知り合った。温厚なお人柄ながら専門的・人間的視点で「子どもの人権侵害の現状」に強い危機感をお持ちになっていた。

この研究会の調査・研究の成果の一端は、日本弁護士連合会第28回人権擁護大会基調報告書（八五年）『学校生活と子どもの人権―校則、体罰、警察への依存をめぐって―』にまとめられている。

一九八五年といえば、非行第三期にあたる〝荒れる学校〟が全国に広がり、その対応に管理主義（取り締まり）教育体制が、全国一律に取られはじめた時期である。

この報告書は、市販されてはいないが、全国の中学・高校の校則などの調査を中心に、学校生活と子どもの人権についての実態調査と法律家としての検討と見解がまとめられた貴重な資料である。この取り組みに参加した一人として、その内容を紹介し、皆様のご検討・ご意見を頂きたいと思います。

◆

報告書は、その冒頭にこう書いている。「既に第21回人権擁護大会シンポジウム（七八年）の際、『子どもの人権』のテーマで、子どもの人権の危機状況を全般的に取り上げ、管理・取締りの強化によって問題を解決する傾向に対して、危惧の念を表明し、子どもの生命・健康・生活・文化・環境などに対する権利保護につき、十分な施策を呼びかけた。

しかしながら、その後も子どもの人権をめぐる状況は一向に改善されることなく、さらに一層深刻な危機に至っており、今や重大な社会問題、政治問題となっている。

中でも、今日学校では、教育条件の整備が遅れ、偏差値に偏った受験戦争が展開され、校則、体罰、内申書による生徒管理が強まり、『おちこぼれ』、中途退学、『いじめ』、登校拒否、自殺、非行など、一日も放置できない事態が現出している。さらには、学校が本来負うべき教育的責務・対応を安易に放置し、警察に依存して問題を処理しようとする傾向も強まっている。…」

三十年も前からの、この法律家の指摘が、今日の現状と基本的に変わらないところに「日本の子育て・教育の問題」の深刻さがあると、私は思う。

◆

保障されるべき「子どもの人権」とは、どのようなものか。この報告書から、法律家の見解を読み、学んでみよう。

「従来、わが国では、子どもの人権を十分に保障しなければならないという国民の意識がきわめて稀薄であった。子どもは、常に女性や老人と同じように、保護される対象として考えられてきた。（中略）しかし、『人間の尊厳』に立脚する人権の諸原理は、大人と子どもで質的に異なるはずのものではない。（中略）

また憲法（11条・13条）では、一人ひとりの子どもたちが『生命・自由・幸福追求の権利主体』であることを承認している。

それを実現するために、子どもは国家・公権力から干渉、妨害、禁止されない『自由』（自由権）をもっている。

しかし、ヒトが「人間」に成長するためには、人間としての精神的発達が不可欠である。そのためには、子どもに対して『学習権』（教育を受ける権利）が保障されなければならない。

その意味で、子どもの人権とは、憲法26条の教育を受ける権利の中核たる『学習権』と、それ以外の基本的な人権―言論・表現の自由、人身の自由、プライバシーの権利、名誉権などの市民的自由の二つから構成されるというべきである。

子どもの権利は、弱い存在として、自分自身でこの権利を行使できないところに特殊性がある。

子どもたちの人間としての権利を確実に実現できるようにすることは大人たちの人間としての義務であるといわなければならない。」と、結ばれている。

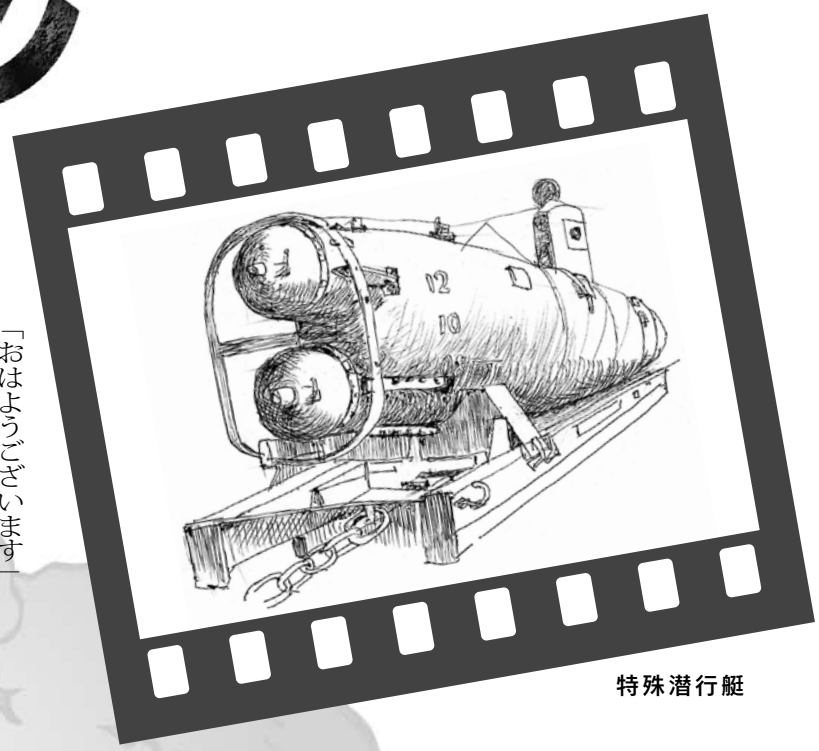
◆

ここまで報告書を読んできて、先回問いかけた「日本の子ども達を、積年にわたり、ここまで追いつめてきた原因」が、明らかになってきたように思う。それは指摘のように、「われわれ大人が、まだ未熟で弱い存在としての子どもの人権を保障し、確実に実現できるよう〝知・徳・体をバランスよく伸す人間教育・子育て〟をする義務を果たしていない」ことに尽きると言っても過言ではないと思う。

この〝大人たちの人間としての子どもへの義務〟を果たし、「人生を精いっぱい生き、社会に役立つ人をつくる」ことを目ざす、阿久比町の幼保小中一貫教育と、家庭・地域ぐるみの実践に、学ばせて頂きたい思いでいっぱいである。

海底百二十五米からのメッセージ

たけし



特殊潜行艇

「おはようございます」
「オハヨウ」
「行って来ます」
「イツテキラツシヤイ頑張ツテー」

今朝も我が家の幸せな一日がスタートした。皆を送った後、朝食をとる。それから新聞の全ページに目を通す。国際情勢・国政・経済・教育文化・芸能・スポーツ・其の他色々。時代と共に変化する世相を楽しく観ている。しかし、心の底に暗く重く沈んで、やりきれない時がある。それは地球の何処かで起きている戦争やテロ事件の記事を目にする時だ。

私もかつて海軍々人として中国長江で上海・漢口の戦闘に参加した。一年三か月に及ぶ戦いの無残な現状を目にした。私はその後人生を一変させた。内地帰還後直ちに潜水学校へ入隊。一発必勝の精神に燃え六か月間の猛訓練。終了後、イ号潜水艦に配属された。そこでの教育で特に感銘したのは乗員六十有余名の一心同体と一秒の時間の大切さである。待ちに待つた遠洋航海に胸が躍った。しかし、出港五日目太平洋上で艦長の声。「日本国は唯今より米国に対し進攻作戦を開始する。わが艦はハワイ奇襲作戦に入る。全員戦闘配置につけ」の命令。そして三日後、我が艦は何の戦闘することもなく真珠湾口十五マイル沖海底百二十五米で敵防戦網(敵の潜水艦の侵入を防ぐために港の入口に張られたワイヤー製の網)にかゝり挫折してしまった。本艦は最新鋭の大型潜水艦であつたが耐え得る水深は八十米である。自然の力には勝てない。総ての機械は高水圧のため運転できず。電灯も付かない。僅かな乾電池の灯のみ。今まで四十度近い高温の中、急に温度の低下。鋼鉄の艦体の至る処から針でついた様に浸水してくる。艦内の気圧は高くなり、どうしようもない。だん〳〵体の関節が動かなくなる。呼吸も困難になってきた。浸水により大型バッテリーが漏電し体中から火花が散る。そんな時指令塔より連絡あり。各自一種軍装に着替え艦尾の方を向いて家族に最後のお別れをするよう指令が来た。しかし、一方で本艦は百分の一の浮上にすべての望をかけていた。すでに十四cm砲弾の火薬が抜かれ、艦底に敷かれていた。浮上失敗すればスイッチで何一ッ残すことなく全員艦もろとも海の藻屑となる。覚悟の上とは言へ余りにも悲壮な情景である。家族の写真を手に見つめている者、一人で酒を汲んでいる者、一点を見つめている者、目をとじ瞑想にふけっている者、誰の顔も蠟人形そのものである。刻一刻と迫り来る生死の境、その時を待つ人の心は何んだろう。恐怖もなければ悲しくもない、涙も出ないが声も出ない。私も同じだった。でも心のどこかで、おれが死んだら母さん可愛そうだナー、母さん淋しがるだろうナー、おれも一ぺん　母さんに会いたいなー、そんな思いが頭をよぎった。潜水艦の戦闘能力は昼間の海上では赤子のように無力だ。防戦網にかかって十二時間後本艦は呼吸の限界ぎりぎりの夜の九時まで待って、浮上の試みをすることになった。浮上確率百分の一の中でも死ぬ気は一切しなかった。それは生きることへの執念だろう。意識朦朧の中ではあるが、大爆発と轟音の中で総て後形もなく海の藻屑と消えてもおれは死なない。死ぬ訳がないと思った。自爆によつて海上に投げだされ救助されるにちがいない。人は知らぬがおれはそうだと今でも頭の奥に鮮明に残っている。浮上の試みは、百分の一の確率に的中し、成功した。最後まで諦めてはいけない。死んでたまるか。艦長以下六十名余りの一心同体と生きる限界の一秒までの辛抱が実を結んだのだ。海軍兵としての八年間で三度の危機一髪に遭遇したが、おれは死なないという気持はいつも同じだった。これはたま〳〵そうなったのか、運命なのか今だにわからない。私は政治家でも宗教家でもない。教育者でもなければ自衛官でも警察官でもない。戦争体験者の一人である。そんな時代に出会っただけだ。この体験は言葉や記述では表現しきれない。しかし私は、この体験によってまた人生の進路が大きく変わった。

私は「どうせ死ぬなら特潜だ」と決意した。特潜(特殊潜行艇)というのは、物資・人材ともに切迫した中で考案された二人乗りで二発の魚雷を装備した超小型潜水艦である。理論上は、小型で敵に発見されにくいので、潜行接近して攻撃。任務を果たして帰還するねらいである。しかし、現実には、体当り攻撃をして果てるという暗黙の了解があった。まだそのころは、自爆兵器は認められないという立て前が、かろうじて生きていたからである。

後日、我々の艦は本にも映画にもなり、奇跡の生還として大きく報道された。しかし、その後の戦いで、二度と奇跡を得ることはできず、戦友は艦と共に任務を全うし帰らぬ人となった。

どうせ死ぬなら特潜だと志願した私は艦を降り、二人乗り特殊潜行艇の訓練を受けていた。

其の後私は特潜部隊で二人の若き熱血上司の教訓を受けた。人間魚雷の発案者仁科中尉と黒木少尉である。二人は完成に向け日夜を問わず研究に没頭した。

魚雷完成出撃の時は頼むぞと約束をした。しかし、時すでに遅し、敗戦となる。あれから六十有余年過ぎた今、真剣に思う。

どんな理由があっても戦争は絶対起こしてはならない。戦争によって何万人の人が幸せになろうともその為に犠牲者の出る事は許されない。竹槍や鉄砲の時代は過ぎ去った。私が言うまでもなく今や何千キロの遠距離から撃った一発の爆弾で何万人の命を奪い土地は廃墟となる時代だ。

今、我々は何をすべきか。この痛ましい戦争に命をかけた多くの人々、戦後復興に命をかけた多くの人々のおかげで今があるのだ。戦争をどのように評価されようとかまわないが、多くの犠牲の上に幸せな今があることを決して忘れてはいけない。

繰り返して言うが、戦争は二度と起こしてはいけない。戦争は自国(己)の過剰な欲望のため起きる。どんな大国であろうとも自給自足は出来ない。かけ替えのない地球。一つの太陽のもと自然は旨く回転している。その内で人種も生活様式も異なる多くの人々が生きている。人類はこの地球の上で対等な幸せを求めて、生きる権利があるのだ。

話せば分かる。必ず分ってもらえる。私は今年九十才になるが、遠い昔の話を聞いてくれる人はなかなかいない。しかし、この願いは海底百二十五米からのメッセージとして発したい。もう一度言わせて下さい。

戦争は絶対起こしてはならない

大型潜水艦
（船橋の前にあるのが十四cm砲です）

知多の動植物雑記（二三五）

原　穣

四月に入ればサクラ、サク。私事ながら、今年はどんな魚や虫、草花に会えるのかなと思うことしきり。

思い出すのは昨年四月。池や川の生物調査で訪れた東海市の丘陵地の中の池で、岸辺にタモ網を入れ、すくってみれば、何と！スジエビがいっぱい。（写真右上）

でも、私の調査対象は池や川の魚。何かいてよーとタモ網すくいをやっていれば、Oh！いたいた！ヨシノボリだー（写真右下）

他に何かいないのかナーと池の四、五メートル先に目をやれば、黄色い花をポツポツ咲かせているコウホネの葉の間に、二、三十センチのコイがぷかりぷかり。

再び、岸辺にタモ網を入れていると、小さな平べったい魚。見ればブルーギルの稚魚。「ここにもいるのかー」と思わず叫んでしまう。

ブルーギルはブラックバス同様、池や川の小魚やエビなどを食べてしまう害魚。

かつて、半田市の小さな池でメダカやドジョウに混じってブラックバスの稚魚を発見。でも二センチ程の稚魚だからまあいいかと見逃して一年。再度の調査結果はメダカ、ドジョウは0。五センチ程に成長したブラックバスだけが我が物顔に。「やっぱりナー」であった。

ブルーギルのいるこの池は大丈夫かナーと水面をのぞいていると、対岸に何かフワリ。頭を上げれば、何とアオサギじゃないか！

アオサギは、日本国内のサギの仲間では最大で、全長は九十三センチ、翼を開けばその広がりは百六十センチにもなる。口ばしは黄色、足は黄褐色。頭は白く、額の両側の黒色帯は目の上を通って後頭部でつながり、そこから伸びる冠羽に続く。

首の前側には、数本の細長い黒斑が縦走するなど、多くの特徴と共に、大きな翼で飛び立つ姿も雄大である。

アオサギが餌を求めて

ちょっとおじゃします

陶芸家　辻本由美子 さん

作品のテーマは『光と絆』。光は器を表し、友情であったり、家族・恋人への信頼を表現し、絆はオブジェを表し、人と人との間にある見えない関係を自分なりに表現している。作品を作ることによって、人と人が出逢い、光を感じてもらい、明日へのエネルギーや希望となればと、彼女は願っている。

これは、彼女が第2の故郷（ふるさと）という常滑での初個展で語ってくれたものだ。

その初個展は、3月上旬に常滑市・やきものギャラリーCEPICAで行われた。蓋を開けた時に感動する作品や、思わず蓋を開けてみたくなるような蓋物作品作りに心掛けたというように、青白磁の蓋物や食器など、多数展示されていた。蓋を開けた時に希望を感じてほしいという彼女の願いは私に届くのかと、私は皮肉にも全ての蓋物の蓋を開けてしまった。そこには、彼女のしなやかな精神と、彼女の

白磁の虜となっている。焼くとピンクの釉薬がブルーに変化し、キラキラと光ってくる。美しいなぁーと思うと同時に宇宙・地球・空・海・自然の中にあるブルーと重なる要素があると話す。彼女には、職人的な探求とともに繊細な美的感覚を求めても、裏切りはしないだろうなぁーと、いう思いがした。

その心がどんどん大きくなってくるのが伝わってきた。

土を触ってみたら、土の感触が面白かったと思って始めた陶芸も十数年になる。彼女は、青磁の虜となっている。焼くとピンクの釉薬がブルーに変化し、キラキラと光ってくる。美しいなぁーと思うと同時に宇宙・地球・空・海・自然の中にあるブルーと重なる要素があると話す。彼女には、職人的な探求とともに繊細な美的感覚を求めても、裏切りはしないだろうなぁーと、いう思いがした。

約6年間を過ごした常滑には、友人がたくさんいる。9日間の個展期間中は、毎日のように友人が訪ねてきてくれた。その多くの友人は、母となっていた。「私だけ、行き遅れちゃったよぉー」という。同性だけど、すごくカワイイ。

個性豊かな仲間に出逢うことができて、刺激を受ける――こんな時は、焼き物をやっててよかったなぁーと思う。

と、いう。将来の目標は、漠然としているけれど、いい物を作りたい。精神的にも技術を磨いて、シンプルな丸いお皿で勝負したいと、熱気がこもっていた。

この人から、今後の活躍に目が離せそうにもない。

（赤井　伸衣）

遺跡　町の考古学

たけとよ（百四）

奥川弘成

曽原北遺跡から鍛冶作業場と粘土を採掘した跡と考えられる遺構が発見されました。

当初、曽原北遺跡は丘陵地に生活用品の茶碗が散布していたことから集落跡ではないかと想定していました。それは、遺跡が古窯跡に隣接してあることから、ここに居住して特殊な職農民が農繁期に農作業、冬場の農閑期には焼き物作りをしていたと考えたのです。

曽原北遺跡に立地がよく似た遺跡に市原地区の森南B遺跡があります。遺跡は、一棟だけが建てられるだけの広さしかない丘陵地のくぼ地にありました。間口二間、奥行き三間ほどの柱を直接、地面に埋けて建てられた掘建柱の建物が見つかっています。

２段掘りの柱穴（森南Ｂ遺跡）

生活に使った茶碗や皿、鍋などとともに、くどの跡も見つかっていて、長期にわたっての生活をしていたようです。

曽原北遺跡と同様に森南B遺跡に隣接して古窯跡があります。冨貴地区の工業団地に近く、団地の造成工事で発見された古窯は五〇基以上ありました。ここは「南無文殊師利菩薩…」と記された陶器製の硯が出土したことで知られる中田池古窯群です。

海に近い冨貴のウスガイト遺跡や東大高と長尾台地などで見られる大規模な中世集落とは隔絶した、丘陵にある曽原北遺跡と森南B遺跡は、古窯と密接なつながりがあったようですが、その性格に違いがあるようです。

それは、森南B遺跡の建物跡の柱穴を観察すると、直径四十㌢ほどの穴を約二十㌢掘り、さらに底に柱となる木の直径に合わせ、直径十五㌢ほどの穴を掘る二段堀となっています。

また二段掘りの柱穴の上段部分には山茶碗や鉢などの破片を込め、下段の穴に差し込まれた柱をしっかりと固定していました。

曽原北遺跡では直径四十㌢前後と二十㌢の穴を数十㌢堀る一段堀りの柱穴です。二段掘りの柱穴より簡易な構築で、柱を立てていました。

出土遺物は森南B遺跡が豊富であるのに対して、曽原北遺跡は少なく、器種も茶碗や鉢、甕など多くありません。ウスガイト遺跡の建物跡と比較しても生活の痕跡が非弱であるといえます。

曽原北遺跡は、ここを拠点として農事作業しながら日常生活をしていたのではなく、特殊な作業場であったと考えられました。そして、鍛冶にかかわる遺物が出土したことで、思っても見ない発見がされました。

それが粘土採掘跡と考えられた遺構です。

竹やぶとの段ち部分は、掘り込まれたように連続したえぐりが見られました。当初、土が流れた跡と見ていましたが、その一ケ所を試し掘りしたところ、白色の粘土が表れました。

粘土は焼き物に不可欠です。特に山茶碗の原料が白色粘土であったと考えられていることから、原料粘土の採掘場としての可能性が高まりました。

いべんと

▼キッズルーム2『親子スキンシップ』・五月八日～七月十七日（木・全十回）午前十時半～同十一時半　内容　新聞や風呂敷など身近なものを使った親子遊び　講師　井筒京子さん（けんこうの輪の木所属）　対象　おおむね二歳～就園前の子どもとその親　定員　二十八組（申込み多数の場合は抽選）　参加費　二人一組二千円（十回分・託児希望の方は別に一人二千五百円）　申込み　四月十日（木）まで

▼キッズルーム3『あひるの親子』・四月十八日～七月一二十五日（金・全十五回）午前十時半～同十一時半　内容　リズムに合わせて体を動かし、心身ともにリフレッシュする健康遊び　講師　サンフェローズ所属員　対象　おおむね二歳～就園前の子どもとその親　定員　三十五組（申込み多数の場合は抽選）　参加費　二人一組二千円（十五回分・託児希望の方は別に一人三千八百円）　申込み　四月十日（木）まで

▼キッズルーム4『キッズイングリッシュクラブ』・五月十四日～七月十六日（水・全十回）午前十時～同十一時　内容　親子が遊びやゲームを通して英語に親しむ　講師　竹本マリビックさん　対象　おおむね二歳～就園前の子どもとその親　定員　十組（一組一名まで）申込み多数の場合は抽選）　参加費　一組四千百円　申込み　四月十日（木）まで

▼自然体験クラブ『自然観察会』年会員募集①四月二十六日（土）②六月十三日（金）③七月十三日（日）④八月二日（土）⑤九月六日（土）⑥十月十一日（土）⑦二十一年二月十四日（土）　時間　①③～⑦午前九時半～正午　②④午後六時四十五分～同八時半　内容　①春の野草や虫の観察　②灯火に集まる虫と〈イケホタルの観察　③海辺の生き物の観察　④日長川の生き物の観察　⑤水田や水路の生き物の観察　⑥きのこの観察　⑦野原の観察　講師　知多自然観察会員　対象　どなたでも、ただし、小学生以下は保護者同伴）　定員　四十名申込み多数の場合は抽選）　参加費　一人五百円（七回分）　申込み　四月十日（木）まで

▼自然体験クラブ『星の観察会』年会員募集①五月十日（土）②七月十九日（土）③九月二十七日（土）④一月一日（土）⑤二十一年二月七日（土）　時間　①②午後六時四十五分～同八時半　③～⑤午後六時半～同八時　内容　①春の星空（金星、土星を見よう）　②夏の星空（月と木星、金星を見よう）　③秋の星空（天王星を見よう）　④冬の星空（二重星を見よう）　⑤南天の星空　講師　ふくろうの会会員　対象　どなたでもただし、小学生以下は保護者同伴）　定員　人五百円（五回分）　申込み　四月十日（木）まで

▼知多っ子体験クラブ年会員募集①四月二十七日（日）②五月二十四日（土）③七月五日（土）④八月八日（金）⑤九月二十日（土）⑥十月十九日（日）⑦十一月二十三日（日・祝）　時間　①⑤午前九時半～正午　③午前八時半～午後三時　②④⑥⑦午前八時半～午後四時半　内容　①国際交流員と英語で遊ぼう　②あいち海上の森自然観察　③地引網　④バックヤードツアー（南知多ビーチランド裏側ウォッチング）　⑤寺子屋　⑥愛地球博記念公園（県児童総合センター）　⑦弥富野鳥園（名古屋市農業文化園）　体験見学　対象　小学三～六年生　定員　二十五名（申込み多数の場合は抽選）　参加費　四十六百円（七回分）　申込み　四月十日（木）まで　その他　日時が変更されることがあります

▼ふれあいミニミニコンサートチビッコ広場』出演者募集・六月二十五日（水）午前十一時十五分から出演時間二十～三十分）　内容　地元の音楽家や楽器の好きな方に、就園前の幼児と親を対象に、子ども向けの生の音楽を演奏してもらいます　出演者数　一組（申込み多数の場合は主催者で調整）　申込み　四月十日（木）まで

▼ボランティア募集・気軽にボランティアとしてみませんか　内容　イベントの手伝いなどを通して、子どもたちと触れ合いを深めます　対象　中学生以上の方　申込み　随時

◎**キッラリー共栄窯**

◎**キッラリーCera（常滑市観光プラザ）**

▼家用ハツ枝陶展・～七月月

▼小西洋平の魚やきもの探訪・十一日（金）～二十一日（月）

▼森示則陶展・二十五日（金）～五月五日（月）

◎**常滑屋**

▼夢創庫『江戸から現代までの暮らしに役立つ器展』・一日（火）～十三日（日）

▼小沼洋子（あじあん　これくしょん）・二十二日（火）～二十七日（日）

▼五感・夏のよそおい展・二十九日（火）～五月十一日（日）

◎**陶芸サロン陶美園**

▼常設展示　秀作陶展・五日（土）～二十七日（日）

◎**キッラリーセピカ（まるふく内）**

▼谷川晋三作展・～六日（日）

▼ピーター　シーブリッジ作陶展・十一日（金）～二十日（日）

▼子供がねてる間に　新米ママ三人展（荒木優子、浜坂尚子、松橋かおり）・二十五日（金）～五月六日（火）

◎**ろ円館**

▼片岡秀美展～九日（水）

▼森迫子グループ展・十一日（金）～二十三日（水）

◎**武豊町立図書館**

▼武豊高校美術部展（武豊高校美術部）・～三日（木）

▼洋画展・十一日（金）～二十四日（木）

◎**武豊町総合体育館**

▼春季バドミントン大会・二十日（日）

◎**武豊町中央公民館**

▼親業体験！・学習会『子供に伝えたいことは、何？・二十日（木）午前十時～午後（）時半　怒っているだけでは疲れたりイライラしたりして損！・怒りのもとを見つけましょう　対象　子どもにかかわる人などなでも　参加費　千円

▼家庭教育セミナー　子育てに関する学習会と質疑応答・学習意欲を育てる家庭教育パート『』・八日（火）午前十時～正午　参加費　無料

▼パソコン広場・各（木）午後一時半～同四時半　参加費　一人七百円（七回分）　申込み　四月十日（木）まで

◎**武豊町民俗資料館**

▼おじいさんのアウトドアー22『春の野山でむかし体験・警固川山周辺を探検し、たけのこほり、わらび採りなどをして　むかし体験をする・十九日（土）　定員　五十名（小学生以上）　参加費　五百円　持ち物　弁当（おにぎり）・水筒・軍手・ビニール袋五枚　申込み　要　※雨天の時は、十日（日）

◎**武豊町民会館　ゆめたろうプラザ**

▼モデルロケット製作教室・東海モデルロケットクラブ）&大宰杯（モデルロケット打ち上げ大会・十九日（土）午前九時半～午後四時　定員　二十名（小学生以上　小学三年生以下は保護者同伴）　参加費　二千百円（材料費含む）以前製作したモデルロケットを持っている人は火薬類と保険料　七百円のみで参加できます　※雨天の場合は、二十日（日）

▼ロケット☆トークライブ・十九日（土）午後一時～同一時　講師　林紀幸さん　定員　五十名（小学生以上　小学三年生以下は保護者同伴）　参加費　無料

▼**東大高見童館**

▼ちびっこカーニバル・十九日（土）午後一時半～同二時半　定員　百名　おくその会・ゲーム・おやつコーナー・工作コーナー

▼体操クラブ・十二日（土）午前十時半～同十一時半

▼手話クラブ・十二日（土）午後一時～同二時

◎**くすのき児童館**

▼母の日のプレゼント作り・十九日（土）午後一時半～同三時半

▼ちびっこカーニバル・十九日（土）午後一～同三時半　定員　百五十名（幼児・小中学生）　おくその会・よさこい踊り・ゲーム・模擬店など

◎**長尾児童館**

▼お花見をしよう・三日（木）午前十一時～午後二時

▼ちびっこカーニバル・二十九日（火・祝）午後一時半～同三時半　定員　百五十名（幼児・小中学生）　ミニSLに乗ろう・ゲーム・工作コーナーお（その会など

▼親子それあい広場（二歳児を中心に親子の遊びや子育てに関する学習講動）・十一日、二十五日（各金）午前十時半～同十一時四十五分　無料

◎**半田空の科学館**

▼四月の星見会・月と土星を見よう！・プラネタリウムで春の星座のお話の後、大人気の月のクレーターとかわいい環のある土星を望遠鏡で観察　また、春の二重星など旬の星も観察する・十二日（土）午後七時・同八時半　定員　六十名（小学生以上）　参加費　大人　三百円　こども　二百円　※黒天時はプラネタリウム茶菓しむ

▼ゴールデンウィークの小ちゃい子向けプラネ　特別幼児番組・ぐたらドラゴンの大冒険！・さあ、ゆかいなドラゴンといっしょに宇宙へ飛び出そう！・五月三日（土・祝）～六日（火・祝）午前十時～正午　参加費　大人　二百十円　こども　百円

◎**半田市青山記念武道館**

▼子育て支援事業・レッツトライ！・2・3・一日（火）

▼半田市ジュニア柔道大会・五日（土）

▼半田市ソボーン少年団大団式・六日（日）

▼愛知県高等学校総合体育大会知多支部柔道予選会・二十七日（日）

▼半田市ジュニア柔道大会・二十九日（火・祝）

◎**碧南　白竹木材**

▼土と炎の作品展・碧陶会　杉浦長次　加藤真誠　斉藤達夫　角谷統祥　高木利明　岡田美知枝　牧野英清　石川　中島美和・四日（金）～十三日（日）　問合せ　☎0566－42－3266

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で発行所へ

紅梅の枝につぼみに紅きざす
パソコンは今も無縁や葱坊主
春めくや若草色の新車来る
啓蟄やシロアリ業者のハガキ来る
春浅し指美しき検査技師
春愁やいわずもがなの手紙かく
腰曲げて歩く母なり雛祭
大空の果てを見てゐし建国日
男系の家に今年も内裏雛
薄氷や叩いて割れぬ鉄の箱
次の音に耳が傾くホーホケキョ
自給率アップなるかや耕せり
年寄りも紙雛飾る夢見月
下校児の迎えの時刻桜草
磯の香の椀に溢るる新岩布
三月やチカリと自動車の反射光
大物に負けじ劣らじミニ盆梅
下草を刈りて手折りし梅の花
薄氷の芝はきらめく島模様
一人居に一輪開き桃の花
寒雀雲の動きに群れて立つ
一声は空耳かとも初音聞く
紅梅のはちきれそうに膨れおり
ジョギングの靴音軽く春きざす
梅咲いて野山は活気取りもどす
すみれ踏む思わず声が春の音
ほんのりと春ときめきや雨水かな
入日して我れ咳込むや夜気の冷え

吉田ひろし　片岡　光子　青山　文代　谷川と志江　竹内すゞ代　平賀たづ子　浦崎ひとみ　中村　克己　林　京子　馬場　利明　冨田　悦子　河瀬四四子　谷川　利子　岩田つま子　磯村美耶子　久田　篤　やました悠　村井みさを　幾世八千代　中野まち子　荒川　達雄　竹内ユミ子　村井　範子　渡辺　民子　山中　博子　中村　洋子　柴山　庄山　大島　竜三

ほいくえんだーいすき

西浦中保育園
５才　飯田　倖弓

ほいくえんだーいすき

常滑幼稚園
３才　早川　まりあ

わが家のニューフェイス

神谷　優月（1才3ヶ月）　悠斗（３才）　武豊町原屋敷

写真・文　神谷かおり

こんにちは★悠斗です。友達と遊ぶのが大好きでいつも元気いっぱい!!最近は妹とおもちゃの取り合いでケンカしちゃうけどホントは仲良しなんだよ！僕の将来の夢はパン屋さんになること☺おいしくて大好きなパンをみんなに作ってあげたいんだ☺お勧めはウィンナーパンとチョコレートパン。僕が大きくなるのを楽しみに待っていてね☺

愛とMy Family

平野 凱士（10才）翔大（8才）杏奈（3才）未祐（6才）常滑市大谷

写真・文　平野麗子

スケに夢中な凱士。工作や絵を書く事が得意で想像力豊かな翔大。負ず嫌いで活発な未祐。歌ったりおしゃべりする事が大好きな杏奈。4人の個性は色々で喧嘩する事が多いけど、思いやりの気持ちもいっぱいあるんだ。毎日にぎやかな時代の今、ぼく達は4人兄弟!!体を動かす事が大好きで今バ

ドーワワークス株式会社

広告自動丁合機
広告自動挿入機
OA機器
新聞システムコンピュータ
新聞自動包装機
新聞販売機

未来に向けて、
新聞販売店様の飛躍に
大きく貢献します。

本　　社：名古屋市北区杉村1-13-24　TEL　052-911-8281　FAX　052-911-5585
営業所：札幌・仙台・福島・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・静岡・長野
北陸・福井・京都・大阪・神戸・四国・北九州・九州・大分・熊本

信頼される安心を、社会へ。
SECOM

Security by SECOM

1981年、日本初の家庭用安全システムとして誕生した「セコム・ホームセキュリティ」。
その広告でおなじみの「セコム、してますか？」というフレーズに込めていたのは、
私たちセコムを“セキュリティ”の代名詞として覚えていただきたいという思いでした。
そして今や、約40万6,000件※のご家庭でご利用いただいている、私たちのサービス。
これからも、変わらぬ情熱を胸に、私たちは、みなさまの安心を見守りつづけます。
※2007年9月末現在

ほんとうの「安心」は、ここにあります。
セコム・ホームセキュリティ

さまざまな商品・サービスについてのお問い合わせは、ホームページまたはフリーダイヤルで。
セコム　検索　0120-025756（24時間・年中無休）